



地域を元気にするために 主体的なCSR活動を実践

宮城県 株式会社 マルタマ 「みやぎ元気の“わ”プロジェクト」事業



株式会社マルタマ 代表取締役社長 竹田 隆さん
経営企画室室長 竹田 恵理子さん
営業部営業推進課 我妻 陸さん

選考理由

「地域を元気に、笑顔に！」をかけた活動は日々の地域清掃、美化活動にはじまり、音楽、スポーツを通じての青少年の健全育成や、ハーモニー・ボックスを各店に設置、障がい者・子ども・お年寄りなどの福祉施設へお菓子を贈るなど多岐にわたり展開している。特徴は地域や大学のクラブなどによびかけ、地域全体へ「わ」を広げながらの協同活動になっていることだ。活動は従業員たちに他を思いやる心を醸成することにもなり、地域全体がつながる効果をもたらしている。

社会貢献活動審査委員会
委員
永井 多恵子氏



楽しみを提供するという原点に立ち返って

1950年創業の株式会社マルタマは、現存するパチンコホール業としては宮城県で最も長い歴史を持つ会社であり、現在、県内5店舗で営業を続けている。

竹田隆社長は、「私たちの業界にとっての社会貢献活動とは何かを考えたときに、来店して下さる地域のお客様に楽しんでもらう、それによって元気になってもらうというパチンコ本来の目的や性格そのものが、社会貢献活動の基本であるべきです。ところが今は射幸性という言葉に象徴されるように、そのあり方自体が変化しつつある。そんななかで東日本大震災が起り、改めてパチンコ業の役割である地域の人々への楽しさの提供ということを考えたときに、本業はもちろんですが、それ以外にも、店舗の外で地域の方々のためにできることがあるのではないかと考え、社員にも語ってきました」と話す。

その意を行動に移すべくマルタマ社内の中堅や若手社員を中心に始まったのが、「みやぎ元気の“わ”プロジェクト」である。「もともと当社は仙台空襲の爪跡が残る町で、人々を元気にしたい、町を盛り上げていきたいという思いからパチンコを生業とすることにした会社です。その思いを軸に、人と人のつながりの輪が広がればよいというイメージからプロジェクト名が決定しました。それまでも当社は日本盲導犬協会への寄付や地域の防災、交通安全など、さまざまなCSR活動に取り組んできましたが、そうした企業姿勢を社



介護老人保健施設でのパチンコ大会



障がい者福祉施設や児童福祉施設などへお菓子を寄付



ホール近隣の清掃活動を実施

外はもとより、社内にも発信することが苦手でした。しかし、CSRは内外に発信して、それが認知されて初めて理解や効果が現われる。その意味も込めて、このプロジェクト名をホームページなどに掲げて活動することにしました」と、活動の中心スタッフである竹田恵理子さんと我妻陸さん。

誰かに任せるのではなく自分たちで行動する

プロジェクトの活動は実に多岐にわたっているが、その一部を紹介すると、介護老人保健施設でのパチンコ大会の開催、障がい者福祉施設や児童福祉施設などへの端玉商品のお菓子の寄付、5店舗のホール近隣の地域清掃、一般や小学校低学年を対象としたフットサル大会「まるたまカップ」の開催、音楽活動をしている地元の大学生に演奏の機会を提供する「音のわフェスティバル」の開催、地元アーティストに作品を展示するためにホールのスペースを提供する「MONOづくり人」などがある。このほかにも、地元で行われる大小のイベントや祭りなどへの出店参加などもある。

特筆すべきは、これらの活動に社内の全部署、全店舗のスタッフが関わっていることである。「最初は業務の一環として割当方式でやっていましたが、いまはほとんどの活動に自ら手を挙げ、休日などにボランティアとして参加する人が増えました」と、竹田恵理子さんは話す。資金提供という形で誰かに任せるのではなく、自分たちが実施や運営の主体となり、汗をかくのが、マルタマの社会貢献活動である。驚くのはその頻度であり、ほぼ毎週、何らかの活動が行われているという。

自分たちが主体的に地域のさまざまな人々とのつながりや輪を求めて活動することで、自分たちの暮らしやキャリア形成などの面で新しい発見があったり、興味の対象を見つけたりすることもあるというが、それがまさしく社会貢献活動やボランティア活動の醍醐味だろう。「他業者や同業者も含め、もついろいろな方々を巻き込み、あるいは自分たちも巻き込まれながら、一緒になって地域を盛り上げていきたい」と、竹田さん。「業務とのバランスを考えながら、今後も地道に活動を継続していくことが大切」と、竹田社長は締めくくった。